

公益財団法人 樫の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		1 作成日	令和 8 年 4 月 28 日
②法人・団体名	特定非営利活動法人 Woods		
③ 団 体 所 在 地 (都道府県・市町村名まで)	東京都文京区白山 2-19-9 2 階アトリエ 1		
④責任者氏名	金木 悠	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	同上	(役職名等)	同上

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R07-018	⑦助成金額	97 万円	⑧申請カテゴリ	D
⑨奨学活動名	経済的に困難な不登校児等のための特別支援の学習支援事業「ムササビルーム」				
⑩主 な 実 施 場 所 名・及びその住所	・埼玉県新座市道場 2-3-15 (クプハウス) ・埼玉県新座市道場 1-13-53 (新座市道場集会所)				

⑪活動内容とその成果の概要 (詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。)

【事業所名:ムササビルーム】

経済的困難を抱える不登校生徒への学習支援及び居場所支援

対象活動期間:2025 年 7 月 1 日~2026 年 3 月 31 日 実施日時:毎週水曜日 午前 10:00~午後 14:00

主な実施会場:埼玉県新座市道場 1-13-53 道場集会所

◆成果

利用者人数延べ:189 名 1 日平均利用者数:4 名

フリースペースとして、カリキュラムに縛られず緩やかな活動を行いながら、引き続き学習習慣を意識し毎活動日に学習の時間を設定声かけ、発達支援も含めた学習方法を提案している。月に一回のランチ提供日には、外部 NPO との連携により食育活動として調理体験を行なっている。

●新座市教育支援ルームへ認定:新座市教育委員会教育相談センターとの連携により、正式に「新座市教育支援ルーム」として認定を受けることができた。あくまで名義的な認定のため、行政からの資金的連携はほぼない。一方で、新座市外の児童の受け入れを継続できているという良い面もある。

また、新座市教育相談センターとの情報共有体制はより深まり、新座市内の公立校との連携は取りやすくなっているといえる。

●新座市道場集会所の安定確保:前年度、活動場所の不安定さが課題として挙げられていたが、新座市教育相談センターとの連携によって、道場集会所を含めた市の集会所月 4 回確保が可能になった。

⑫奨学活動の定量的把握 (注:統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。)

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	189	90	17010	1 日平均 4 名、1 名 1 ヶ月通室平均 20 時間
高校生等	0	0	0	
大学生等	0	0	0	
学習支援員等	108	324	34992	1 日 3 名、4 日/月、9 ヶ月
その他				
合 計			52002	

⑬その他の定量的な数値 (任意)

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：経済的に困難な不登校児等のための特別支援的学習支援事業 「ムササビルーム」

法人・団体名：特定非営利活動法人 Woods

作成者 氏名：金木 悠

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

発達特性を抱えて不登校やそれに近い状態にある児童への居場所支援、学習支援をおこなった。
経済的困難や発達障害などの困りごとを抱える児童が自ら安心でき、きめ細やかな支援を受けることのできる学習場所を選び取ることができるよう、居場所を求める児童生徒へ無料の個別学習支援を拡大し、それぞれが抱える事情にかかわらず、本人の希望に寄り添う教育の提供を可能にすることで、教育の格差解消に努める。

2. 実施した奨学活動の詳細

【事業所名:ムササビルーム】

経済的困難を抱える不登校生徒への居場所学習支援

◆事業開始時期:2023 年 4 月～

◆対象活動期間:2025 年 7 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

◆実施日時:毎週水曜日 午前 10:00～午後 14:00

◆実施会場:埼玉県新座市道場 2-3-15(クプハウス)

埼玉県新座市道場 1-13-53(道場集会所)ほか周辺集会所

◆対象:小中学生を中心とし、主に以下の状況におかれる児童生徒。

- ・経済的困窮世帯に属する生徒(非課税世帯、ひとり親世帯、生活保護受給世帯)
- ・児童養護施設入所生徒
- ・保護者の就労状況の芳しくない世帯家庭の生徒

◆支援内容:国語算数数学英語を中心とした学習支援及び生活支援。月1回の昼食提供支援

◆参加人数：中学 1 年生 1 名、2 年生 1 名、小学 1 年生 2 名、2 年生 2 名、3 年生 3 名、4 年生 3 名、5 年生 2 名、6 年生 2 名＝延べ 189 名





◆周知方法や協力関係者：NPO 法人オハナプロジェクトと連携した食支援活動及び周知活動。新座市道場地域で子ども食堂、宅食など食支援活動を行う NPO 法人オハナプロジェクト
食育支援を兼ねた調理実習を行うことで、食に対するこだわりを持っていた児童も、自分で作った食事に興味を持ち、口にしたことのない食材にも挑戦するような姿が見られた。

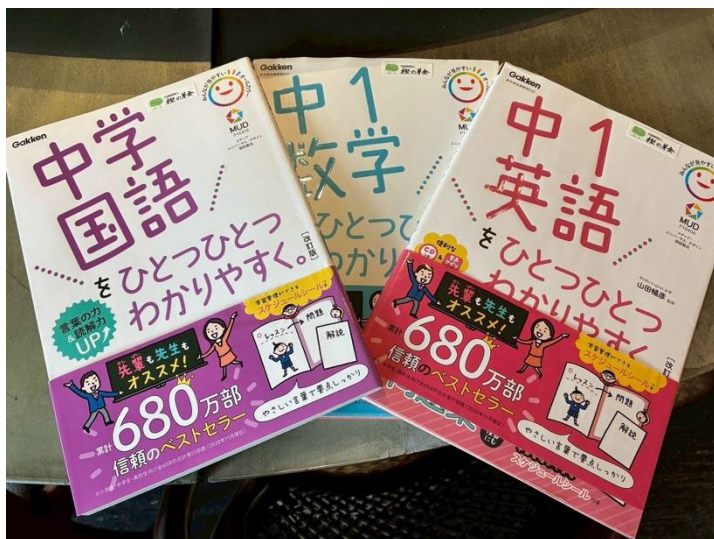


◆地域やボランティア活動との連携：今年度からこどもまんなかネットワーク新座に加盟し、地域でこどもひろばや子ども食堂を行う団体との緩やかなネットワークを形成している。新座市内の”福祉フェスティバル””ボランティアまつり”に出展参加。子どもの居場所についての周知率を調べるアンケートを実施し、学習支援のためのフリースペースについて説明した。

昨年から継続したアンケート実施により、地域の中での子どもの居場所に対する認知が少しずつではあるが広がってきていることがわかった。

◆学習支援員について：教員免許を保有する常勤の学習支援員と、ボランティアとして登録する大学生～社会人の学習支援員を配置。発達障害や子どもとの関わり方に関する資料研修を行なっている。今後は社会福祉協議会やボランティア募集团体との連携により持続性のあるボランティア募集体系を構築する必要がある。

◆購入機材・物品写真



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

生活保護世帯の児童や、就学相談を利用している児童生徒の利用に加え、朝霞市や大泉学園など、周辺地域の児童からも問い合わせや体験活動利用があり、広い地域で必要とされていることがわかった。地域の子ども食堂を行う NPO との連携により、居場所につながるができず家庭内に引きこもり状態になっている潜在的な児童がまだ多く存在することがわかっている。また、新座市教育委員会による適応指導教室ふれあいルーム担当者とも会談を行い、当活動とふれあいルームの併用児童も出てきたことで今年度からは情報共有に加えて、当活動への参加を児童の出席日数として記録してもらうことができた。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

本活動を通じて最も強く感じるのは、適切な「合理的配慮」と「安心できる居場所」さえあれば、子どもたちは自ら歩み出す力を本来持っているということです。

今年度の活動の中で、特に印象的なエピソードがあります。当初、集団の中に入ることに強い不安を感じ、学習に対しても「どうせ自分にはできない」と諦めていた中学2年生の生徒がいました。私たちは、彼の特性に合わせてスモールステップでの学習計画を立て、対面での対話を重ねる中で、「正解すること」よりも「自分のペースで取り組むこと」を尊重し続けました。

数ヶ月が経った頃、彼は自ら「志望校について調べたい」と口にするようになりました。それは、単なる進学への意欲というだけでなく、自分の未来を肯定的に捉え始めた変化の兆しでした。不登校という状況下で、一度は社会との接点を失いかけた子どもたちが、ムササビルームでの学びを通じて自信を取り戻し、少しずつ顔つきが頼もしく変わっていく姿には、支援員一同、深い感銘を受けています。

不登校や発達特性を抱える子どもたちの成長は、決して直線的ではありません。三步進んで二歩下がるような日々もありますが、その揺らぎも含めて伴走し続けることが、私たちの使命だと確信しています。

地域に根ざしたこの活動が、単なる学習支援の場に留まらず、子どもたちが「自分らしく生きていけるのだ」と思える土壌となるよう、今後も一人ひとりの可能性を信じ、粘り強くサポートを続けてまいります。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリにて「S」が付されている団体）